

## ー呉羽山山頂広場の立山展望台より立山連峰を望むー

立山開山の祖・佐伯有頼像の目に新幹線開通はどのように映っているのでしょうか



▲ 平成13年、立山開山1300年を記念して、富山市郊外の呉羽山に白鷹をのせた有頼少年像が建立されました。

### 立山開山伝説

天空に連なってそびえ立つ立山は、四季折々の神秘的な姿を私たちに見せてくれます。朝陽を浴びながらゆっくりと姿を現す雄大な立山、また、真正面から夕陽が照らされるとバラ色の姿が映し出され、私たちを魅了してくれます。そのような美しい立山に初めて登ったのが、越中国守であった佐伯有若の長男・有頼で、701年頃と伝えられています。

16歳の有頼少年は、父・有若の大切な白鷹を持ち出して鷹狩りの遊びをしたところ、鷹は獲物を捕らないで逃げてしまいました。鷹を連れ戻そうと後を追いかけているとき、熊に襲われ、有頼は弓に矢をつかえて射ると矢は熊の胸に命中し、熊は点々と血をこぼして山深くへ逃げていきました。熊の後を追って高い山に登ると、熊は岩穴へ逃げ込みます。有頼がその岩穴へ近づくと、まぶしい光が差し、その中には胸に矢がさった仏様が立っておられました。有頼はひれ伏してお詫言しました。

その夜仏様からお告げがあります。「立山はまたとない霊山です。私は鷹に姿を変え、おまえをこの立山に導いてきたのです。立山を開くために全力を尽くさない」

有頼は目を覚まし、その場で髪をそり落として僧となり、「慈興」という名で立山開山のために尽くしました。慈興上人は80歳以上の高齢で芦峯で亡くなったといわれます。芦峯寺には佐伯姓が多く、有若・有頼一族の子孫と伝えられています。また志鷹姓も多いですが、白鷹ゆかりの名とされています。



▲ 立山曼荼羅 天界（富山県立立山博物館入場券より）



▲ 立山曼荼羅 地獄（富山県立立山博物館絵巻書より）

万葉集の時代、立山は神様の山として称えられていましたが、平安時代になると、地獄の山、恐ろしい山とされてしまいます。罪を犯した者が死んで地獄に落ちるとされ、地獄に落ちた女性が地藏様観音様に助けられた、という伝説がいくつも今昔物語などに残されていて、日本中の人々に広く読まれました。

立山地獄の恐ろしい光景を描いた「立山曼荼羅」は、芦峯・岩峯のお坊さんが立山信仰を説教するのに使われました。特に岩峯のお坊さんが全国各地で立山の話をする際、大きな曼荼羅の掛け軸を指し示しながら地獄の恐ろしさを説き、地獄を免れるため、生きているうちに立山参りをするよう勧めたそうです。その際、立山のお札や立山の薬を人々に配りました。その薬を配ったやり方が富山の売薬の配置行商に似ており、富山の売薬は立山のお坊さんのやり方をまねたのではないとも言われています。



▲ 旧宿坊であった芦峯寺の邸宅

さて、江戸時代になると、立山は地獄・極楽の世界をこの世で体験できる場所として全国的な信仰を集め、最盛期には一夏6000人もの人々が登拝したといわれています。信仰の山として「越中の立山」「加賀の白山」「駿河の富士山」と言われました。

芦峯には38の坊、岩峯には24の坊がありました。坊はお坊さんの住居であり同時に登拝者のお世話をする宿坊です。芦峯には大仙坊・道善坊などがあり、岩峯には多賀坊・中道坊などがあり、賑わいを見せていました。

芦峯の村の外れに、姥堂（おんばどう）という大変重要なお寺があります。祀られているのは姥尊で、親しみを込めて「おんばさま」といいます。おんばさまは両手に五穀の種と麻の種を持って、天井界から芦峯の地に天降り、地上界に「食」と「衣」をもたらされたといわれます。

また、越中の男子は、十歳余りになると町や村ごとに隊を組み、真新しい衣服を着て立山に登拝していました。有頼を鑑として、立山を目標に、子供たちを清く強く育てたいと願ったのでしょうか。立山登拝こそ越中人の成人式であったといわれています。越中だけでなく、能登半島の村からも若者が舟に乗って富山湾を横断して立山登拝を行い、成人式にしたとされています。

越中の子供たちは立山を目標に育てられ、立山登拝で心清く、体はたくましく、魂は清く強くされて、まさしく「立山教育」でありました。



▲ 常願寺川を越えて剋岳を望む、新幹線の高架橋。力強さを感じます

富山-東京間 2時間7分！  
富山経済の発展が期待されます

2015年春、待ちに待った北陸新幹線が開通します。できるだけ多くの人に私たちの誇れる雄大な立山を見ていただき、立山に育てられた富山県民の力強さ・たくましさ・おくゆかしさを感じていただきたいと思います。そして、地元の食材（魚・野菜・肉など）でおもてなしをしたいと思います。

参考資料：富山県立図書館蔵「立山のはなし」より  
立山関連写真提供：石黒龍太郎様（第一薬品工業㈱会長）



▲ 剋岳を背景に雪の中を走る特急はくたか



▲ 立山連峰と富山市上空を飛ぶ飛行機

先祖代々受け継がれているこの富山という地で生活している私たちは、知らず知らずのうちに立山の恩恵を受けているのかもしれません。

台風の被害も少なく、立山に守られているとよく言われますが、いつからか私たちが守っていかなくてはいけないのかもしれません。



▲ 北陸新幹線の車両（東京駅にて撮影）

（工事部・上沢）（企画部・伊藤）

## 是正処置・報告

### 1. 状況

オール電化工事において、蓄熱暖房機器が変更になっていました。

### 2. 対応

現地で電線サイズを計算確認し、配線をやり直しましたが、時間がかかってしまい、お客様にご迷惑をおかけしました。

### 3. 反省

取付け機器が当初の予定から変更することは十分あります。その可能性を考え、工事前に工務店さんに再確認しておく必要があったと思います。思い込みをしないこと、確認は大切だと再認識しました。

（工事部・大山）



## お客様紹介

今年4月に「あしたねの森」がオープンしました!



▲ 高齢者施設（写真左）と保育園施設（写真右）が併設されています



▲ 目にも環境にもやさしい自然光を最大限活用できるようにしています

今回施工させていただきました「あしたねの森」は、1つの建物内に特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・保育園があります。

照明器具は、電球色を基本としたLED照明を設置しています。また、ZEB化を意識して、屋光を最大限活用し、内装デザイン性と合わせて省エネルギー性を高めています。高齢者の方とお子様が共有する空間をやさしい光で包んでくれると感じています。

今年1月から本格的な工事に入り、竣工まで短期間の工事であったため、日々現場内の状況が変化し対応が大変でしたが無事完成・竣工することができました。

これからも省エネルギー性の高い高齢者施設の建築が増えてくると思います。今回の施工経験を生かしていきたいと思っています。

（工事部・盛田）

社会福祉法人アルペン会様が富山で初めての高齢者施設と保育園がひとつの敷地に併設された複合施設として、「あしたねの森」を開業されました。この施設は、高齢者施設の皆様が日常的に保育園の子供達と身近に交流ができるような設計になっており、高齢者の皆さんが元気に暮らす活力源となっています。

当社は大成建設株式会社様から高齢者施設の電気設備工事を施工させていただきました。

「あしたねの森」がお子様と高齢者の交流施設として、子供達の成長と高齢者の皆様の憩いの場としてご発展されますよう祈念しています。

（営業部・小林）

## チーム新栄の仲間が増えました

工事部施工管理課

佐伯 翔海（さえき しょうみ）です。今は分からない事はありますが、とても頼りになる先輩社員の方々に囲まれ、戸惑いながらも楽しく、充実した日々を送っています。少しでも早く会社の戦力になれるよう、努力していきます。

工事部施工管理課

津幡 祐馬（つばた ゆうま）です。不器用ではありますが、毎日一つ一つ確実に技術や知識を身に付けて、1日でも早く会社に貢献できるように頑張ります。



総務部

釜土 なつみ（かまど なつみ）です。私は小学校から高校までバスケットボールを続けてきたので、バスケットボールで身に付けた粘り強さを仕事でも生かしたいです。今は日々新しいことの連続ですが、早く仕事を覚え、様々な仕事をこなせるよう頑張ります。

工事部施工管理課

姫野 陽介（ひめの ようすけ）です。まだまだ分からない事だらけですが、自分にできることを精一杯行い、1日でも早く会社の戦力になれるよう、頑張ります。

☆☆ 平成26年春に入社した新入社員です!よろしくお願い致します ☆☆



# 当 社 近 況 報 告



## 営業企画部

当社の協会の組織が4月19日に「新友会」として新たに発足致しました。「新友会」は以前にも存在していたのですが、時代の変化と共に安全衛生協会へと形を変えておりました。近頃の人手不足や高齢化が深刻さを増していく中で、当社では大型の工事に携わらせていただく機会も増えてまいりました。1人・1社では不可能なことも、横の連携を強くし、皆で乗り越えていく。「新友会」はこの基本姿勢の基で、お客様のお役に立てるよう精進してまいります。今後ともご指導よろしくお願い致します。（営業部・清水）



## 資材課

資材課では現在、年に2回の棚卸を行っております。本社と婦中支店の倉庫には様々な電気工事の部材があります。私は入社してから半年が経ちましたが部材の名称や知識がまだまだ浅いです。以前の職種から全く知らなかった電気設備工事の職業に就き、特に驚いたことが部材の種類の多さです。中でも電路支持材のメーカーさんは数万点の部材があり、実際に部材を見てどのようなものかカタログから探すのに苦戦します。でもこの棚卸を通して、部材のカタログを見ながら少しずつ覚えていきます。

まずは現場でよく使う部材だけでもしっかりと覚え、現場の皆さんの仕事のサポートができるように頑張ります！

（資材課・松永）



## 総務部

昨年の7月に3人目を出産しました。今は職場復帰をし、職場の方、保育所の方、その他たくさんの方の協力を得ながら、子育てと仕事の両方を頑張っております。わが社は、「元氣とやま！子育て応援企業」に登録し、両立支援の取り組みを行っております。子育て中の社員が働きやすいように配慮されているので、助かる面が数多くあります。子供たちは、まだ手のかかる時期ですが、頑張って乗り切ります。



▲「元氣とやま！子育て応援企業」登録証（写真左）  
▲ いたずら大好きな女の子です♪（写真右）（総務部・酒井）

総務部では、環境整備の一環として、社屋内外に観葉植物や花を植えて、ほっとできる空間づくりに努めています。毎年、夏になると裏玄関の階段横には朝顔を植えていたのですが、今年は、夏野菜に挑戦します。きゅうり、プチトマト、ナスの3種類をプランターに植えました。今、プチトマトの実が膨らみ始めています。立派に収穫できるほどに育ってくれたら、お昼に食堂でとれたて野菜を出したり、帰宅時に収穫して、家に持って帰ったりしていただければと考えています。頑張って、たくさん実らせたいと思います。



▲ ナス・プチトマト・きゅうり。  
花や実が出てきました。収穫が楽しみです。（総務部・清水）



## 社内で花を育てています



ホシキキョウ…可憐



ノースポール…誠実  
ロベリア…いつも愛らしい



ガザニア…あなたを誇りに思う



サフィニア…咲きたての笑顔



ユリオプスデージー…明るい愛

## 社長よりご挨拶

深緑の候、各位には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。  
新年度に入り早くも2ヶ月が経ちました。当社は4月に新入社員4名が入社しまして、社内の雰囲気は若い力で明るさが増し、活性化しております。  
また、お蔭様で「新栄だより」も順調に発行を続けることができ、第12号をお届けできることとなりました。ぜひ、ご一読賜りますようお願い致します。  
当社の業況につきましては、お取引先各位のご指導ご鞭撻により、お蔭様で順調に推移しております。  
これからも、お取引先各位のご信頼を頂けますよう社員ひとり一人が意欲をもって業務に取り組んで参る所存ですので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。（代表取締役社長・清田）

## 発行元



### 株式会社新栄電設

〒930-0953 富山県富山市秋吉37-2 TEL:076-491-5113 FAX:076-491-5118

（編集・校正：小林・清水・伊藤・上沢・盛田・酒井・清水（早）・大山・松永・津幡・佐伯・姫野・釜土（デザイン担当・西沢） 2014年6月11日発行